

議 事 録

会 議 名	令和6年第1回中部空港警察署協議会（定例会）
日 時 ・ 場 所	令和6年2月16日（金） 午前10時30分から午前11時15分までの間 ----- 中部空港警察署 講堂
出 席 者	1 委員 長屋 良計 会長 兼田 大副会長 小島 すみれ 委員 今井 麻央 委員 伊藤 哲也 委員 以上5名（定数6名） ----- 2 警察署員 杉浦 署長 皆川 副署長 大屋 警務課長 柴田 会計課長 千賀 生活安全刑事課長 花谷 地域交通課長 千賀 警備課長 以上7名 ----- 3 有識者等 なし
諮 問 事 項 等	大地震発生時における空港島内の被災状況を迅速に把握するための方策
答 申 等 の 概 要	地震発生時における空港島内の効果的な情報集約方法の確立
そ の 他	次回開催予定 令和6年6月中旬

会議の経過及び発言の要旨	
1	会長挨拶
2	署長挨拶
3	前回の答申に対する具体的施策の推進状況
	(1) 諮問事項
	官民一体となった犯罪抑止活動について
	(2) 答申事項
	ア 官民一体となった防犯キャンペーンの実施
	イ 多角的な情報収集活動の推進
	(3) 推進施策（生活安全刑事課長説明）
	ア 答申事項アについて
	地元野球球団の投手を一日警察署長に委嘱し、特殊詐欺防止キャンペーンの実施
	空港関連企業の女性職員2名を一日警察官に委嘱し、特殊詐欺防止の啓発品配布、注意喚起の実施
	空港職員に対する刺股講習会の実施
	イ 答申事項イについて
	空港島内のささいな情報を入手し、島内の安心安全につなげるための情報提供ツールの構築
4	諮問
	(1) 諮問事項
	大地震発生時における空港島内の被災状況を迅速に把握するための方策
	(2) 諮問事項の設定理由（警務課長説明）
	記録者
	警務係長

会議の経過及び発言の要旨

本年1月1日に発生した能登半島地震において、救助活動を行う上で一番困難であったのは、被災状況の実態が分からず、どの地域の被害が大きくて、どこに多くの被災者がいるのか等の被災実態がつかめなかったことである。そこで、限られた人員で効果的な救助活動、避難誘導活動等を行うためには、まず、管内の被害実態を把握することが最も重要であり、あらゆる活動の基本となると考え、今回の諮問事項とした。

5 協議

委員 ・ 能登半島地震発生時は空港内で勤務していたが、周囲にいる人のスマートフォンの緊急地震速報のアラーム音で地震発生を知った。

・ 地震発生後の津波も心配される。私たち職員は、ターミナルビルの上階に避難するように指示を受けている。情報を収集する拠点となる「対策本部」を設置するならターミナルビルの上階が良いと思う。

委員 ・ 空港内の電話、無線等のネットワークが遮断されたことを考え、電話等に代わるネットワークを構築する必要があると思う。

・ 地震発生時にとるべき行動を空港で勤務する職員だけでなく、空港を利用する一般客に対しても、誰が見ても分かるようなポスター等を掲示して周知する。

委員 ・ 空港島内は限られた場所であるので、地震発生時は、島内の企業と官庁が連携を図れるのではないだろうか。

・ 伊勢志摩サミットの際には、ターミナルビル内に対策本部が設置されていたと記憶している。地震発生後の対策本部は必要となるの

記録者

警務係長

会議の経過及び発言の要旨	
で、そこを情報収集の拠点として活用すれば良いと思う。	
委員	・ 空港島内の企業、官庁にどれだけの食糧や水を備蓄しているかを島内全体で把握する必要があると思う。
	・ 催事場には、多ければ一日に2万人の集客がある。そのようなときに地震が発生すれば、ライフラインが復旧するまでの間に、食糧や水をどれだけの人に提供できるのか、避難場所を確保できるのか想定した方が良い。
	・ 訓練、ロールプレイングを行い、そこで出た問題点、課題を解決しておく必要もあると思う。
委員	・ 空港へのアクセスである唯一の公共交通機関である鉄道は、地震が発生すれば、安全が確認できるまでは止まることになってしまう。島内の混乱を鎮めるためにも、空港利用者に対して、いち早く正確な情報を伝える必要がある。
6	答申
地震発生時における空港島内の効果的な情報集約方法の確立	
7	その他
次回の開催予定は、令和6年6月中旬とする。	
	記録者
	警務係長